

自由南アフリカの声

Voice of Free South Africa

2002年2月
No.28

発行 / アジア・アフリカと共に歩む会

Published by Together with Africa and Asia Association (TAAA)

2002年2月の報告

- 2002年10月、車輸出整備完了。南ア免税許可待ち。
- 9月～12月、インターナショナルスクール3校より本の寄付
- 12月、南アにてTAAA 連絡員がMEI 移動図書館員と会合
- 南アのストリートチルドレンの3団体に本を贈る
- 南ア BLL へ本2,754冊を送付
- 平林連絡員一時帰国。1月末、南アへ戻る

目次

最近の活動から	2
子どもの虐待と性犯罪、家庭内暴力について	4
ジンバブエの土地問題	5
<10周年を迎えて> 最初の一歩	6
会員からの便り・活動報告	7
寄付をくださった方々	8



平林連絡員を歓迎するデベトン小学校の子どもたち 2001年12月

TAAAの南ア連絡員・平林薫さんが、昨年12月にTAAAの送った本を、
ストリートチルドレンの3団体を直接訪ねてプレゼントしました。

◆平林さんからの便り

12月3日にデベトンを訪問しました。

学校が終わる週で、ちょうどアリソンさんが移動図書館車の期末在庫チェックを行なっているところでした。在庫はコンピューターに登録され、しっかりと管理されています。

現場では、ハウテン州教育省のジョージ氏とドライバー兼アシスタントのABSALOME氏に会いました。ジョージはまず図書館車がベースにしているINTERMEDIATE SCHOOLの校長先生や先生方を紹介してくれて、そのあとタウンシップをぐるっと案内してくれました。アリソンは、ABSALOMEがとても仕事がよくできるので大変助かっていると言っています。ですので、図書館車が休みに入ってもアシスタントとして仕事をしてもらっているのだそうです。3人から日本の皆さんにどうぞよろしく、そして来年はぜひまたこちらを訪問してください、とのことでした。

広い倉庫内は、登録を終えてこれから図書館車にのせる本と、まだ未登録の本でいっぱいです。未登録の本の中から、ストリートチルドレンをケアしているNGOへの寄付の分を選ばせてもらいました。あまり時間がなかったのと、私の車のスペースに限界があったので、今回は7箱いただいて3つのNGOへ寄付しました。

1. ストリート・ワイス (男の子のみ)、
2. トワイライト・チルドレン (男の子のみ)
3. テンバ・レソ・プロジェクト (女の子のみ)

それぞれのNGOにつきましては追って紹介いたします。

来年に入ったらまた少し本をいただけることになっています。テキストブックも喜ばれましたし、ペーパーバックはファンドレイジングのためのガレーセールにも使えるとっていました。とにかく素晴らしい本がたくさんあって、皆感激していました。思いがけないクリスマスプレゼントに大喜びでした。ありがとうございます。

◆本を受け取った南アのNGOからの手紙

- 「ストリート・ワイス」のために素晴らしい本の寄付いただき、お礼を申します。

ストリート・ワイスは南アフリカのストリート・チルドレンを援助して下さる方のいらっしゃることを誇りに思っています。ストリート・ワイスは非営利団体であり、寄付のみによって成り立っています。

支那コーディネーター ノックス・ケスビ・モガジョア

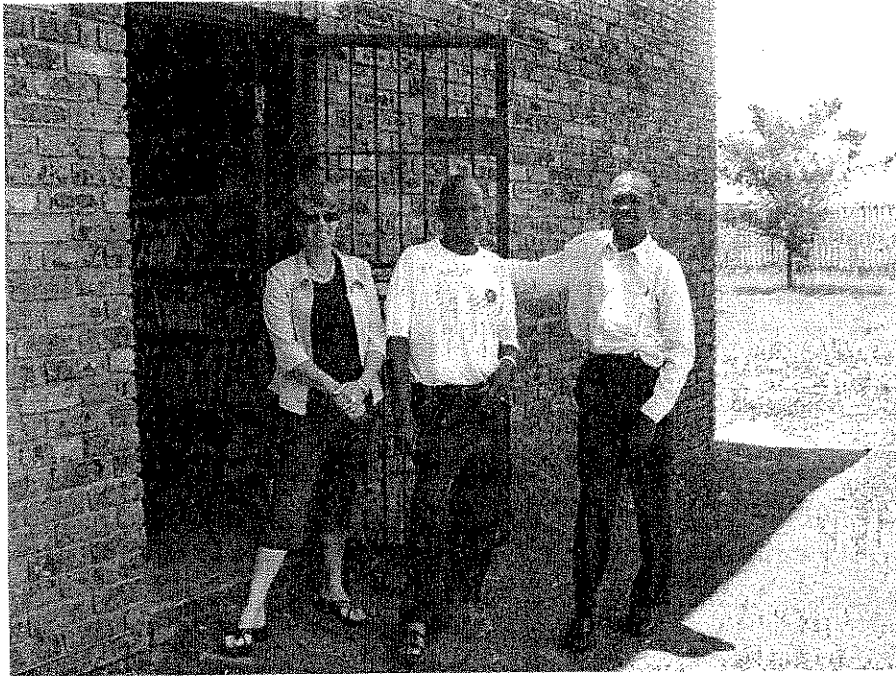
- ストリートチルドレン・プロジェクトの組織「トワイライト・チルドレン」は私たちの団体への寄贈について心からお礼を申します。子どもたちは本をいただいたことにとっても喜んでいますが、私たちは長くあなた方からの支援がいただけることを願っています。本は、世界中の子どもたちが皆なにかしらプレゼントを期待しているこの良い時期に、ここの子どもたちのところへ届けられました。恵まれない子どもたちも、こうしたプレゼントへの期待について例外ではありませんから、あなた方は本当に素晴らしいことをして下さいました。

トワイライト・チルドレン理事 ミドレッド・マランガ

- 「テンバ・レソ」のスタッフと少女たちは、あなたとあなたのお仲間からいただいた本のご寄付に対して、お礼を申し上げます。あなた方のご厚意に対していつも心から感謝しています。有難うございました。

ミセス T・マーシャ

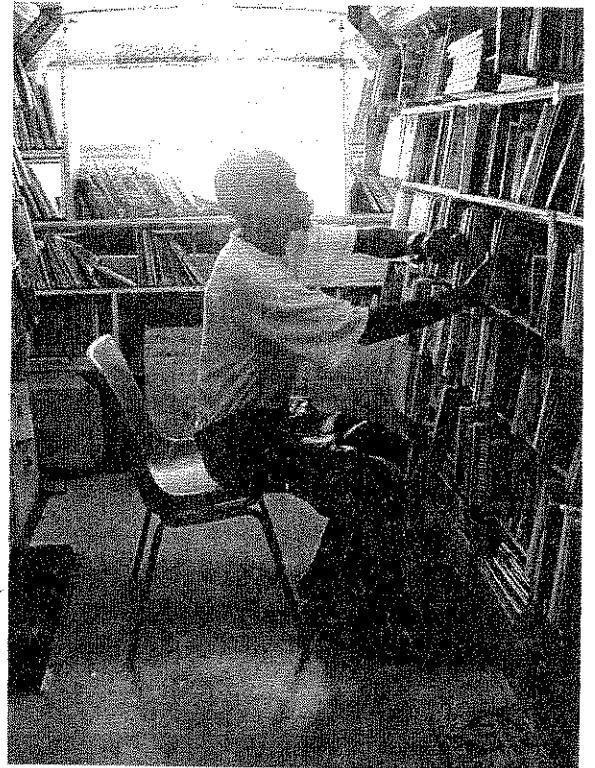
(訳 野田千香子)



デベトン移動図書館のスタッフ
左より司書アリソン、運転手アブサロメ、
スタッフのジョージ



本を持つストリートワイズの子どもたちとスタッフ



移動図書館内で働くアブサロメ氏



プレゼントされた本を見るテンパレソの子どもたち

子供の虐待と性犯罪、家庭内暴力について

平林 薫 (TAAA南ア連絡員)

つい先日、ケープタウン郊外のカラード居住区で大変ショッキングな事件がありました。8ヶ月の赤ちゃんが寝ているところを連れ出されレイプされたのです。赤ちゃんは翌朝発見され、病院で手術を受けて命はとりとめました。犯人はまだ捕まっていません。

この事件に、人々は“またか”、という絶望的な気持ちを抱いています。というのは、先月ノーザンケープ州のアピントンという町で9ヶ月の赤ちゃんが6人の大人たちにレイプされたばかりだからです。犯人は20代からなんと66歳の男も含まれていました。この事件には国中が衝撃を受け、狂った社会と犯人たちに対し、女性リーダーたちやNGOを中心にメディアを使って大々的な抗議キャンペーンが行われました。赤ちゃんはキンバリーの病院で手術を受け、回復に向かっていますが、おそらく将来子供は産めないし、精神的なトラウマも抱えていなければならないだろうとのレポートがありました。いったい、どういふつもりでこの大人たちは赤ちゃんに対してこのような行為をするのでしょうか。

南アフリカの9州のうち一番大きな州、ノーザンケープ。面積は広くても、乾燥して荒れた土地が多く、生産性の最も低い州です。産業といえば鉱山くらいしかなく、しかも近年閉山が相次いでいます。そのため全国的に高い失業率が、ここではもっと高く、小さな掘っ立て小屋に何家族も同居し、たった一人が何十人も養っている場合もあります。子供たちは学校に行かず、教育がないため職に就けないという悪循環に陥るのです。大人たちはなけなしの金で酒を飲みうっぷんをはらしているうちにアルコール中毒者となっていき、あげくに女性や子供たちへの暴力を振り始めるという最悪のシナリオがここでは日常に起こっています。またケープタウン周辺のタウンシップも失業率が高く、同じような状況で、若者たちはギャングメンバーになり犯罪を繰り返しています。

そういった社会状況が引き金になっているとはいえ、抵抗のできない赤ちゃんに対してこのような行為をすることへの言い訳にはなりません。

ある日の新聞記事には、アピントンでの事件の裁判が

始まるというレポートの他に以下のレイプに関するレポートがありました。

- ・38歳の女性がシンナーを吸っていた少年たち6人(13歳から17歳)を注意しようとしたところ逆にレイプされる(キンバリー/ノーザンケープ州)
- ・15歳の少年が6歳の姪をレイプ(トコザ/ヨハネスブルグ)
- ・1999年に11歳の少女をレイプした48歳の男に終身刑(ブマランガ州)
- ・1989から96年にかけて自分の双子の娘たちをレイプし続けた男への裁判が始まる(ソエト/ヨハネスブルグ)

そして、そのすぐ翌日、クワズールー・ナタール州で、妊娠中の女性が顔見知りの男にレイプされたあと29箇所もナイフで刺され、何とか命はとりとめたものの、赤ちゃんを失うという事件のレポートがありました。また、レイプされるのは女性ばかりではないというレポートは、ソエトで11歳の男の子が上級生4人からナイフを突きつけられ、レイプされたという事件です。記事では、家庭で親が道徳教育をして欲しいとの警察からのコメントがありました。しかし、自分の娘をレイプする親たちに道徳教育などできるのでしょうか。

最近目立ってきているのが、顔見知りや家族、親戚などからレイプされるという事件です。ただ家庭内の場合、恥になるとか、親が併発所に入ってしまうと生活に困るとかの理由で警察に届けない例が多くあるといわれています。

昨年テレビのトークショーに勇気を出して出演した黒人の女性は、付き合っていた男性とその友達たちにレイプされ、そのあと顔をアイロンで殴られ、焼かれました。手術を受けたものの、目鼻口がほとんどつぶれたようになってしまっています。なぜこのような残忍な行為に至るのでしょうか。お互いを尊敬しあい、愛しているからこそ付き合い合っているはずなのに。

南アフリカでは26秒に一人、誰かがどこかでレイプされているという統計がでています。

このような状況はなぜ起こるのでしょう。一つにはこれもアパルトヘイトの残した負の遺産といえると思います。人種の中で下層に位置する有色人男性たちは、自分たちが受ける差別のうっぶんを、より下に位置する（とされる）女性たちへ向けてきました。そしてまた経済的不公平、失業率の高さなどの社会問題も過去の政治体制に帰するものといえます。

しかし、家庭内暴力やレイプは有色人層だけの問題ではありません。裕福な白人層でも起こっており、また彼らはしばしば金を払って子供たちを買っているのです。そのため貧しい家庭の女の子たちは、“生活のために” 身体を売るようになってゆきます。

これらの問題を解決してゆく道はあるのでしょうか。第

一に、経済の安定と雇用を促進すること。これはもちろん政府にがんばってもらわなければなりません。また女性リーダーたちは、被害者たちとにかく声をあげなさい、勇気を出して誰かに相談すれば、きっと救済の道が開けるから、と訴えています。そして法的な措置を整えていくこと。とにかく罰則を厳しくしなければなりません。ブマランガの48歳の男が終身刑になったのは、大変珍しいケースで、ほとんどの場合、保釈金を払って自由の身になっているレイピストが多いのです。メディアも暴力や性を売り物にするような番組や記事を控え、あとは家庭やコミュニティが監視する目をもっていくことだと思います。素晴らしいリーダーたちがたくさんいるこの国は、苦悩しながらもきっと良くなっていくはずだと信じています。

ジンバブエの土地問題

お話：小関葉子 文：久我祐子

※元アフリカ日本協議会の事務局長で、今はジンバブエ在住の尾関葉子さんが、昨年12月に一時帰国されました。そこで、ジンバブエの事情についてお話いただきました。

ジンバブエは南アフリカの北東に隣接する内陸国で、イギリスの植民地・アパルトヘイト時代をくぐりぬげ1980年に独立したという、歴史的経過からみると南アの先輩にあたる国です。しかし、独立後も人口の1%しか占めない白人が優良な土地の80%を独占し、経済の他のセクターでも白人に牛耳られたままになってきました。

2000年になると、このような不平等に大いなる不満をいだけ黒人農民が白人農地を不法に占拠し、白人農園主の襲撃事件なども起こるようになりました。総選挙で黒人票獲得を狙うムガベ大統領は「白人農園主は国家の敵」として事態収拾を図る意図がないことを言明し、これに批判する野党メンバーへの襲撃事件も多発するなど、一時的に国全体が大きな混乱に巻き込まれました。その後、政府は法に基づき実現可能な土地再配分計画を立てることになり、また元宗主国のイギリスが土地改革支援のための資金拠出を表明するなどして、一応事態は収拾しました。

南アやジンバブエのように植民地時代に白人農園主に土地や経済を独占させられていた南部アフリカ諸国が健

全な発展をすすめるにあたって、この土地問題が大きな壁となっています。白人の大農園が輸出する農産物が国力をささえてきたことは事実ですが（そしてこれが土地問題を複雑にしていると思いますが）、土地や伝統的な農業を奪われた多くの黒人が犠牲になってきたことを忘れてはなりません。また、雇われている黒人やカラードの農地労働者は、人権を無視され悲惨な生活を強いられています。

尾関さんの話を聞いて、植民地支配やアパルトヘイトによって出来上がった経済の構造が、政治構造が変わったあとも、どれほど過酷な負の遺産として国民にのしかかり、健全な発展を妨げるものなのかと改めて考えさせられました。

ジンバブエは今年の春には現大統領の任期が終了する予定になっています。新しい大統領には是非土地改革を健全な形で進めてもらい、南部アフリカに良い前例を作ってもらいたいと思います。

最初の一步

浅見克則

当会もついに10年の歴史を刻んでここまでやって来た。本の整理に駆り出した息子も小学2年から高校2年まで成長した。送り出した本、数十万、移動図書館車11台（現在2台の車が輸入許可待ち）、これが私たちの10年間の成果だ。継続は力なり。この10年間の私たちの努力は、南アフリカの教育事情の好転に多大な影響を与えたと信じている。

最初は小さな一步だった。野田代表と私はある文化団体に属していた。ある日、アフリカの人々に古着を送るから協力して欲しいと、当時ANC東京事務所を手伝っていた野田代表の要請に皆で応じた。私も家族の古着をかき集めて協力をした。集まった古着はかなりの量に達した。そこで私は公民館から野田家までの輸送をかってでた。運び込んで驚いた。玄関と言わず、廊下と言わず応接間までもが古着のダンボールに占領されていた。このダンボールの山を千葉の集積場まで送る寄付金を集める必要があるとボソリと言った野田代表の術中に、このときハマッタのだと大分後になって気がついた。千葉までの輸送も申し出てしまった。あまつさえ、その分類も手伝うことになった。黙々と働くボランティア達をある種の感動の目で見た私には、その帰り道、結果の報告会を開こうという野田さんに反対する理由がなくなってしまっていた。

現在南ア政府の要人として活躍するジェリー・マツイーラ氏(ANC)にゲストとして南アの現状を講演してもらった。その後来日した女性活動家のユニス・コマネ氏にも講演を依頼し、その中で草の根で援助できる物品を挙げてもらった。その中に本があった。本なら何とかなる。そう直感した私たちは教育ボランティアとして船出をした。数年後には移動図書館車の寄贈も種々の有利な条件も重なってスタートし、活動に花を添えている。

10年間を振り返ると、様々な人々が様々な能力を持ち寄って支えてくれた。しかし、根幹には野田代表の強力な粘りが、この会の存続には不可欠であったと今になって思いを馳せる今日この頃である。

TAAA 10周年記念誌への寄稿のお願い

アパルトヘイト政策が続いていたところに産声を上げたNGO「アジア・アフリカと共に歩む会」も、今年で10年目を迎えます。小さいけれど、地道に続けてきた活動には成果と呼べるものがあったと思います。実が熟すまでには長い時間が必要です。教育という分野で支援する我々にも、息の長さが求められるでしょう。とはいえ、活動を持続させ、発展させていくことは容易なことではありません。節目の年を迎え、今までの活動を振りかえり、新たな1歩を踏み出すために10周年記念誌を発行することになりました。

ここでお願いがあります。記念誌では今までの活動を支えてくださった方々の声を寄せていただきたいのです。本の梱包作業に顔を合わせることでできる会員だけではなく、本やお金を送り続けてくださった方や、ご協力をいただいた支援団体の方…多くの声が集まることにより、会の活動がより大きく、強くなっていくと思うのです。この10年間の思い出、今後の活動への展望や期待すること、皆さんに伝えたいことなど何でも結構です。ぜひこの機会にご寄稿ください。よろしく願いいたします。(なお編集の都合上、4月末を締切りとさせていただきます。)

10周年記念誌編集委員 下谷房道

会員からの便り

■皆様、始めまして。老人ホームで働いていて、TAAAでは本の引き取りなどのお手伝いをさせて頂いています。お手伝いをさせて頂いている大きな理由は私の精神にとって重要なことをTAAAに関わっている人たちから学ぶことができるからです。

私にとっては、こうした活動はとても重要な物。

TAAAにこれから期待することは、私にとってもTAAAIに参加、協力して下さる皆様にとっても、そして、自国をより良い物にしていこうと努力している南アフリカの人たちにとっても、TAAAと関わって良かった、と誇りをもてるように活動を続けてもらえたら、と思います。

村泉 巨竹

■1996年に活動に参加して以来、6年経ちます。その間、活動になかなか参加できなかった時期もあります。しかし、それでもこの会の活動だけは続けたいと思ってこられたのは、活動に参加する皆さんの、肩の力を抜いた、しかし熱心な関わりと、教育は子供たちの人生の選択肢を必ず広げてくれるという確信があるからです。年明けに南アを訪ね、以前一緒に働いていた路上に住む子供たちと再会しました。「学校に行きたい」路上で5年以上の時を過ごした少年が言いました。以前とは違い、目に強い力と意志が感じられます。「もう、この子は大丈夫」そう思うとともに、誰かがそう決心した時、必要な教育がそこにあること、それがいかに大切かを痛感しました。路上の子供たちにも再びチャンスが与えられるように、そして多くの子供たちが路上に出てこなくてもすむように、これからも、会の活動を通じて自分にできることをきちんとしていきたいと思います。

千葉 愁子

◆主な活動 (2001.9.10~2002.1.15)

9/26 埼玉県国際交流協会へ助成金申請の面接 野田千香子
 9/29 さいたま市上大久保中学校文化祭ボランティア部に参加
 野田 安部 弥生
 9/25~10/10 会報27号編集 山田玲子
 10/5 会報住所ラベル準備 小宮山明子
 10/13 JCV津山直子さん南ア帰国報告会 野田 安部
 10/14 セントマリイインターナショナルスクールへ本引取り
 村泉巨竹
 10/14 編集会議 野田 山田
 10/18 シャロームキリスト教会バザー 安部
 10/24 会議 久我祐子 野田 安部
 10/26 NHK労組 会報27号印刷 小松浩
 10/26 車輸出整備終了。南ア通産省免許許可待ちに入る。
 10/27 アメリカ大使館へ本引取り 浅見克則
 10/28 本梱包作業 浅見 安部 野田 村泉 北川健一
 10/31 会報27号発送 井出栄栄
 11/11 梱包作業 下谷清道 北川 山田 野田 安部 村泉
 荒井理恵

11/11 シャロームキリスト教会よりバザー収益金寄付
 11/22 清泉インターナショナルスクールが本28箱を届けて
 くれる
 11/26 さいたま市国際交流協会設立準備会議に出席 浅見
 12/2 ジンバブエ在住の尾崎葉子さんの懇談会 浅見 久我
 安部 野田
 12/3 南アにて平林薫がテバトンのMEIと学校を訪ね、図書館員たち
 と会議
 平林がストリートチルドレンの施設3団体へ本を7箱配布
 12/6 アメリカンスクールインジャパンへ本引取り 村泉
 12/9 ELETより2001年中間報告 45枚 届く
 12/13 BLLへ70箱2754冊送付 野田
 12/15 外務省NGO活動啓発セミナー 野田
 12/16 作業・忘年会・会議 10周年について 野田 浅見
 下谷 山田 村泉
 12/23 シャロームキリスト教会(バザーお礼) 野田 安部
 12/29 TAAA南ア連絡員平林薫、一時帰国
 1/13 平林を囲んで会議 野田 浅見 久我 安部
 1/15 ロータリークラブ福原秀夫さんと講座打ち合わせ 野田